

平成29年度 宇都宮都市交通戦略推進懇談会 結果概要

日 時 平成30年3月20日（火曜日）午後1時00分から午後2時15分まで

場 所 宇都宮市役所14階 大会議室

出席者 別添資料のとおり

内 容 1 開会

2 議題

(1) 宇都宮都市交通戦略の平成29年度の施策事業評価について

(2) 宇都宮都市交通戦略の総括と今後の方向性について

(3) 「(仮称)第2次宇都宮都市交通戦略」の策定体制等について

3 その他

「企業版ふるさと納税」認定事業の実施状況の評価について

4 閉会

開会

会長選出

- ・森本委員を会長に選出

会長挨拶

- ・「宇都宮都市交通戦略」は平成21年に策定し、宇都宮市が掲げる「交通未来都市」の実現に向けて、鉄道、LRT、バス、地域内交通、自転車などに関する様々施策事業を進めてきた。近年は、自動運転システムなど策定当時には無かった技術も登場している。今後、「(仮称)第2次宇都宮交通戦略」の策定に当たってはこうした最新の動向についても検討していく必要があると考える。円滑な議事運営に努めていくので、活発な議論をお願いしたい。

議題(1) 宇都宮都市交通戦略の平成29年度の施策事業評価について

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料1, 別紙1-1～別紙1-5説明

会長

- ・質疑等あればお願いしたい。

委員

- ・別紙1-1のうち、「サイクル・アンド・ライド用駐輪場の整備」と「基幹公共交通の整備」の2項目についてお願いがある。今後、これらの項目について検討を進めていく際には、宇都宮ライトレール株式会社も協議の場に参加させていただきたい。
- ・自転車は重要な2次交通、3次交通であるため、LRTの各停留場に上り下り合わせて10

0台程度の駐輪ができるようにサイクル・アンド・ライド用駐輪場を整備していただきたい。歩行者の行動範囲は約500m、自転車の行動範囲は1～2km、バイクの行動範囲は3～5kmと言われており、駐輪場の整備により、停留場を中心として半径1～2km圏内の集客を図ることができるようになる。

- ・また、JR宇都宮駅西側のLRT整備に当たっては、JR宇都宮駅の横断という大きな問題がある。新幹線と在来線の間をLRTが通ることになると思うが、かなりの急勾配となるため、LRT車両の登坂能力を考慮しながら検討していく必要がある。
- ・このほか、駅西側の大通りにLRTの軌道が入ることにより、宮祭りやバスへの影響について市民から心配の声がある。
- ・これらの問題について協議を行う場に参加させていただき、一緒に知恵を出していきたいと思う。

事務局

- ・LRTの整備に当たっては、宇都宮ライトレール株式会社と連携を密にして情報を共有しながら進めていく。
- ・サイクル・アンド・ライド用駐輪場については、LRTの各停留場付近の民間施設や道路空間を活用して整備していくことを検討している。多くの方が利用できるような整備を進めていきたいと考えている。
- ・JR宇都宮駅の横断については、北側の迂回ルートが有力となっているが、平成30年度にあらためてJRと協議を行いながら整備内容を固めていきたいと考えている。
- ・JR宇都宮駅西側の整備については、大通りにおいて宮祭りやクリテリウムなどのイベントができなくなるのではないかと懸念の声があるため、今年度実施している駅西側LRT導入課題検討調査の中で、イベントへの影響と対応策について検討を行っている。できるだけ早い時期に調査結果を取りまとめ、宇都宮ライトレール株式会社や沿線商店街の皆様等と議論しながら進めていきたいと考えている。

委員

- ・調査結果を取りまとめる前に協議の場に参加させていただきたい。

会長

- ・関係機関と十分な事前協議を行った上で整備案を作成していくものと考えている。市と関係機関の間で密に連携を取っていただきたい。

事務局

- ・今年度実施している駅西側LRT導入課題検討調査は、駅西側の整備内容について結論を固めるものではない。今後、これらの調査結果をたたき台として皆様と議論しながら整備内容を固めていきたいと考えている。

委員

- ・ぜひ、そのようにお願いしたい。

会長

- ・他に質疑がないようなので、議事を進める。

議題(2) 宇都宮都市交通戦略の総括と今後の方向性について

議題(3) 「(仮称) 第2次宇都宮都市交通戦略」の策定体制等について

会長

- ・議題(2)と(3)は密接に関係しているので事務局から一括して説明されたい。

事務局

- ・資料2, 別紙2, 資料3, 別紙3説明

会長

- ・質疑等をお願いしたい。

委員

- ・資料2の3ページの「環境にやさしい交通環境の整備」において、アイドリングストップ機能付きバスの導入や家庭向け電気自動車の普及についての記載があるが、「(仮称) 第2次宇都宮都市交通戦略」の策定に当たっては、エリアを限定したEVバスの導入についても検討していただきたい。また、栃木県において水素ステーションの設置を進めていることから、燃料電池バスの導入についても検討していただきたい。

事務局

- ・現在、LRT沿線の低炭素化の促進に向けた検討を進めており、その中でEVバスの導入についても検討を行っているところである。近年、様々な技術の進展があることから、「(仮称) 第2次宇都宮都市交通戦略」の策定に当たっては、EVバスや燃料電池バスの導入についても検討していきたいと考えている。

委員

- ・資料3にあるとおり、高齢化が進展しており、団塊の世代が後期高齢者となる、いわゆる「2025年問題」が迫っている。現在のところ、本市の高齢化率は約23%であるが、局地的には30%を超えているところもある。
- ・福祉分野では地域包括ケアシステムという形で、高齢者が地域社会に参画できるよう支援を行っている。交通分野においても、高齢者を支援するため、公共交通を利用してもらうための様々な施策を進めていただきたい。鹿沼市においては免許返納者のバスの運賃を無料にしている。

事務局

- ・現在、LRTの整備や地域内交通の導入地域拡大を進めているが、併せてバス路線再編や新設バス路線の社会実験にも取り組んでいる。また、免許返納者への対応として運賃体系の見直しを進めていきたいと考えている。市民の皆様から、バスに対する運賃の負担感を軽減してほしいという声ももらっている。本市には、高齢者に対して5,000円のバスカードを1,000円で購入できる制度があるが、今後はこうした取組みを拡大し、高齢者の外出機会を増やしていく施策について、「(仮称) 第2次宇都宮都市交通戦略」に盛り込んでいきたいと考えている。

会長

- ・「(仮称) 第2次宇都宮都市交通戦略」の策定に当たり、資料3に記載された宇都宮都市交通戦略策定委員会と本懇談会の役割について説明してほしい。

事務局

- ・資料3の1ページ目を御覧いただきたい。資料の左側が庁内に組織する宇都宮都市交通戦略策定委員会、右側が本懇談会である。策定に当たっては、庁内の策定委員会で作成した原案を本懇談会において協議し、その結果を原案に反映させることで内容を固めていく。

会長

- ・「(仮称)第2次宇都宮都市交通戦略」の計画期間は10年間か。

事務局

- ・現行計画と同様、計画期間は10年間となる。

会長

- ・10年経過すると大きな変化がある。LRTやEVバスなど多様な交通手段が出て来ているので、皆さんと情報交換をしながら策定作業の中で議論していきたい。
- ・他に質疑がないようなので、議事を進める。

「企業版ふるさと納税」認定事業の実施状況の評価について

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料4説明

会長

- ・質疑等をお願いしたい。

委員

- ・資料4の3ページ目の「寄附受入の状況」において、「平成29年度は、寄附活用事業の支出実績がないことから寄附の受け入れはできない」とあるが、現在、寄附したい人がいたとしても、受け入れできないということか。また、平成30年度における寄附の受け入れはどうなるのか。

事務局

- ・予定されていた寄附活用事業が実施されず、次年度に繰り越しになったことなどにより、平成29年度は寄附の受け入れができない。また、寄附の申込はなかった。
- ・平成30年度は事業実施により、寄附の受け入れが可能になる予定である。

会長

- ・ほかに質問はなければ、本日の議題については了承するというところでよろしいか。

委員一同

- ・異議なし。

以上